



“地域のことは地域で考えよう”

2017年5月29日

おきぎん県内景況・速報 2017年4月

一県内景況は、拡大している一

■個人消費

スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。
百貨店売上高は前年同月を下回る。
家電卸出荷額は前年同月を下回り、新車販売台数も下回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を上回る。
生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も上回る。
ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を上回る。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)は上回る。

■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月を下回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2017年4月分)

◎2017年4月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

4月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月上回りました。百貨店売上高は衣料品の需要が伸びず、5ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、太陽光発電を含むその他家電が減少し、2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。新車販売台数はレンタカー需要が前倒しとなったことから4ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、市町村や沖縄県発注による大型工事などにより前年同月上回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月上回りました。

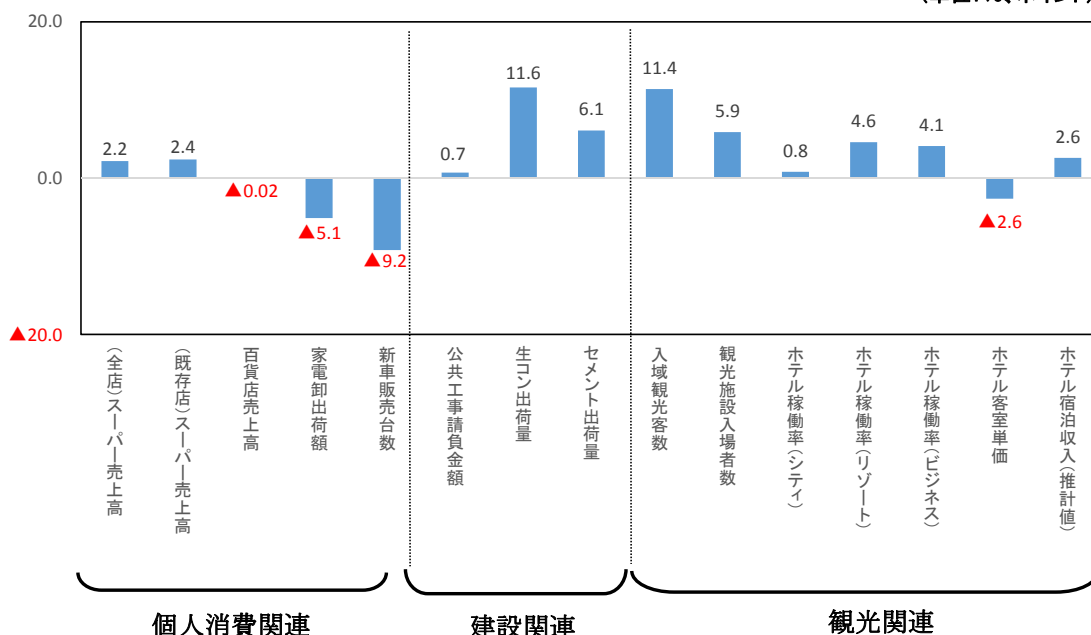
観光関連では、入域観光客数は55ヵ月連続で前年同月上回り、観光施設入場者数も前年同月上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月上回りました。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)は上回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から39ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)



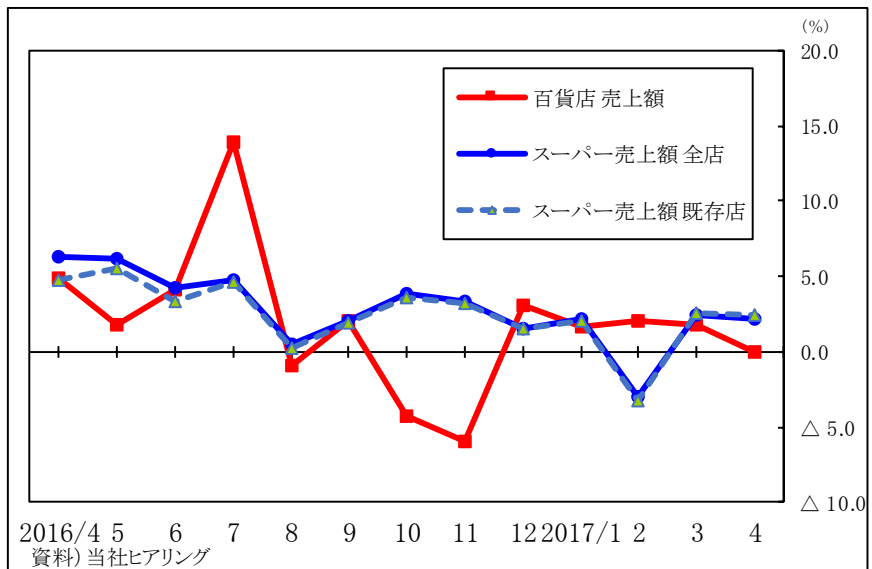


■ 個人消費: (やや良い)

①スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高は前年同月を下回る。

単位:%

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2016/4	6.3	4.8	4.9
5	6.2	5.5	1.8
6	4.2	3.3	4.1
7	4.8	4.6	13.9
8	0.5	0.2	△ 0.9
9	2.1	1.9	2.0
10	3.8	3.6	△ 4.3
11	3.4	3.2	△ 5.9
12	1.6	1.5	3.1
2017/1	2.2	2.0	1.7
2	△ 3.0	△ 3.2	2.0
3	2.4	2.6	1.8
4	2.2	2.4	△ 0.02

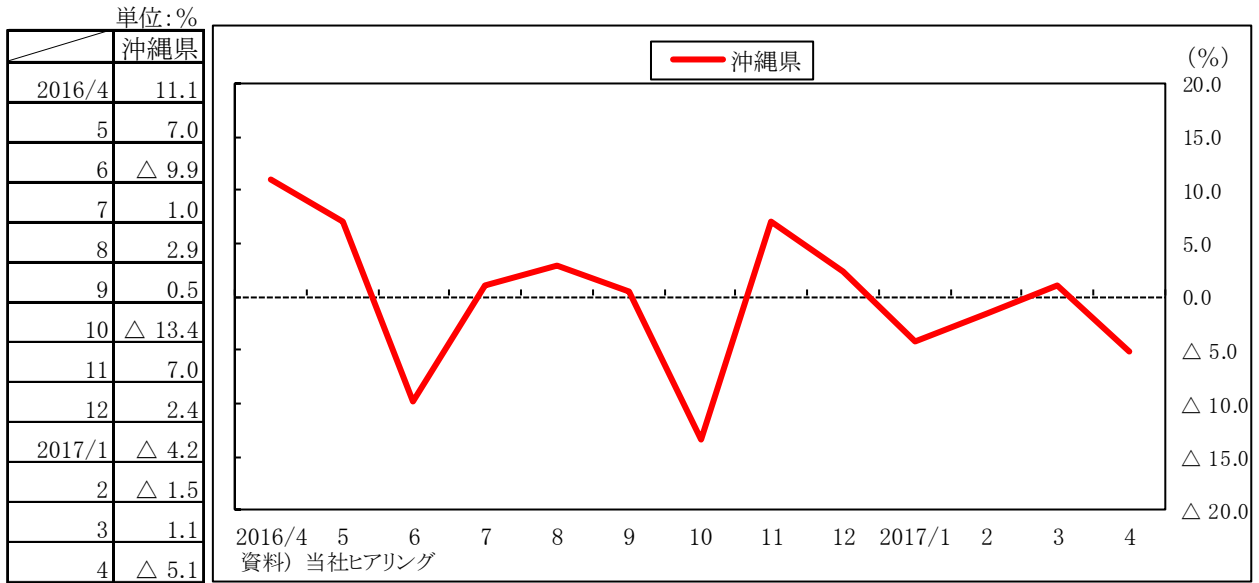


注) 前年同月比

4月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 2.2%増)」はウエイトの高い「食料品(同 3.2%増)」などの売れ行きが伸び、前年同月を上回りました。「既存店ベース(同 2.4%増)」も、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、ウエイトの高い「食料品(同 3.5%増)」は、生鮮全般(精肉・水産・青果)や惣菜の売れ行きが堅調に伸び、前年同月を上回りました。また家電を含む「家庭用品(同 0.2%増)」は、エアコンやテレビなどでは買い替え需要などにより売れ行きが堅調だったほか、インバウンド(訪日観光客)による雑貨(化粧品、小物類)需要も堅調であったことから前年同月を上回りました。「衣料品(同 1.6%減)」は夏物の需要が伸びず、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、「家庭用品」や「雑貨」などの売れ行きが堅調であったものの、衣料品の需要が伸びず、5ヵ月ぶりに前年同月を下回りました(同 0.02%減)。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品(同 5.7%減)」は、「紳士服(同 0.8%増)」の売れ行きが好調だったものの、「婦人服(同 6.5%減)」、「子供服(同 8.8%減)」は前年に平均気温が高かった影響で伸びた反動で伸び悩み、全体を引き下げました。一方で、「家庭用品(同 22.8%増)」は、新生活関連需要が堅調だったことから、前年同月を上回りました。また「雑貨(同 8.5%増)」も、継続的なインバウンド需要により前年同月を上回りました。

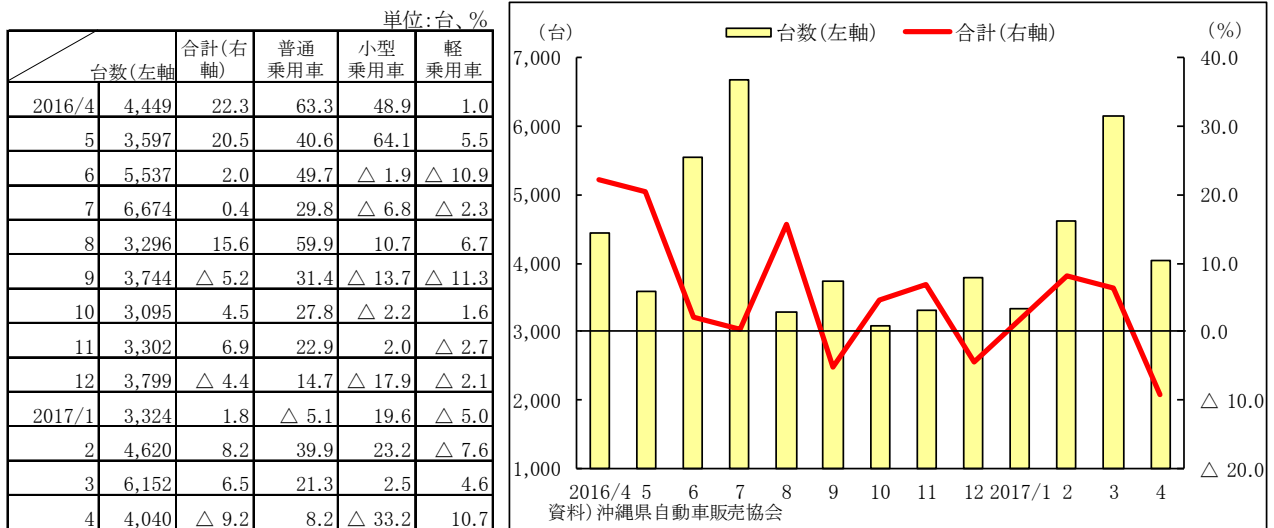
②家電卸出荷額…新生活関連が伸びるも、全体としては前年同月を下回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、新生活関連のエアコンや冷蔵庫が好調だったものの、太陽光発電を含むその他家電が前年に伸びた反動から減少し、全体としては2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました(同5.1%減)。品目別では、高価格帯商品を投入した「テレビ(同 26.8%増)」や新生活関連の「エアコン(19.6%増)」「冷蔵庫(同 3.2%増)」が好調だったものの、太陽光発電を含む「その他家電(同 16.9%減)」は前年伸びた反動から前年同月を下回りました。

③新車販売台数…小型乗用車の需要減少などから前年同月を下回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で4,040台(同9.2%減)となり、4ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。車種別では「普通乗用車(同8.2%増)」は3ヵ月連続で前年同月を上回ったものの、「小型乗用車(同33.2%減)」は一部のレンタカー需要が1、2月に前倒しになった影響から4ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。また、「軽乗用車(同10.7%増)」は、軽自動車税増税の影響等により落ち込んだ前年の反動から、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

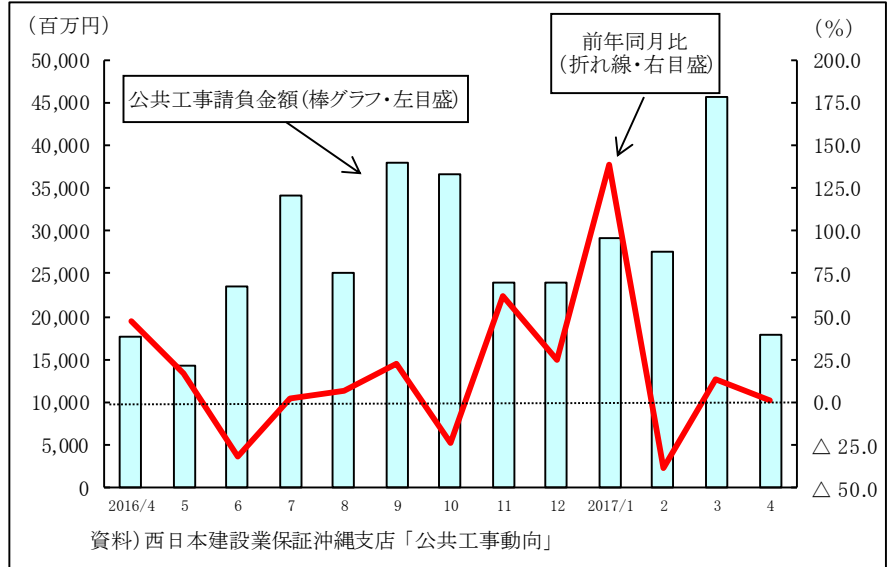


■ 建設関連: (やや良い)

①公共工事…公共工事請負金額は前年同月を上回る。

単位:百万円、%

	請負金額	前年同月比
2016/4	17,690	47.5
5	14,261	16.8
6	23,421	△31.8
7	34,156	2.0
8	24,997	7.0
9	37,867	22.8
10	36,683	△24.1
11	24,026	62.2
12	23,920	25.1
2017/1	29,148	138.9
2	27,499	△38.6
3	45,553	14.0
4	17,823	0.7

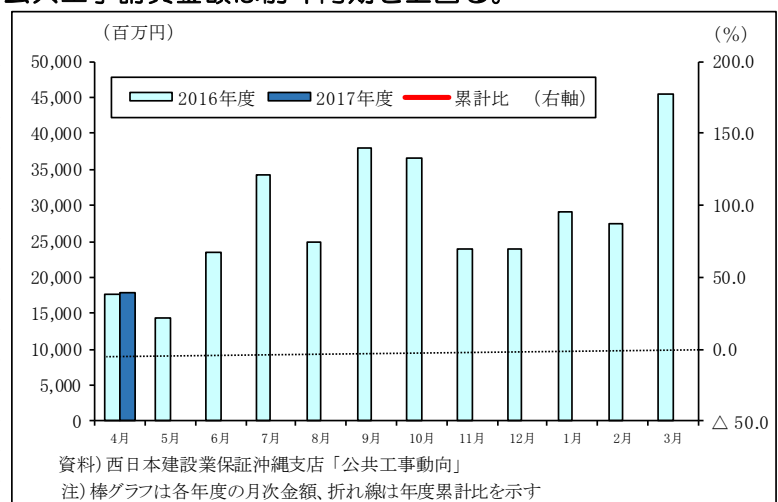


4月の公共工事請負金額は、前年同月比0.7%増の178億2,300万円となりました(2ヵ月連続増)。発注者別でみると、「独立行政法人等(同27.4%増)」は沖縄自動車道関連工事などの大型工事があったこと、「沖縄県(同11.6%増)」は沖縄市での設備工事のほか、大型工事が積み上がったこと、「市町村(同19.4%増)」はうるま市での小学校校舎増改築工事などで前年同月を上回りました。一方で「国(同40.9%減)」や「その他の公共的団体(同58.7%減)」は下回りました。

【参考】公共工事(年度累計)…公共工事請負金額は前年同期を上回る。

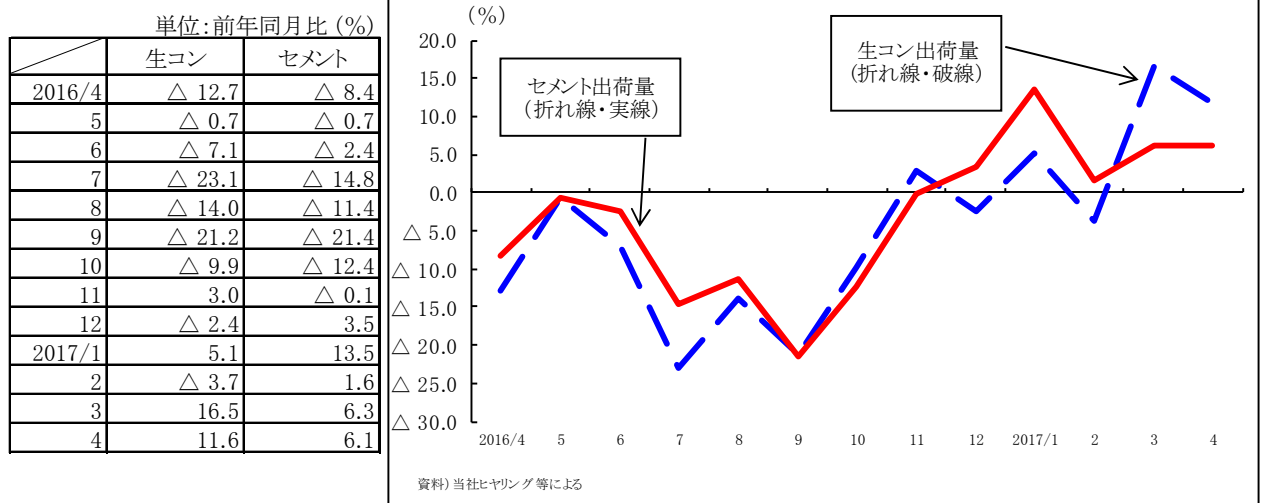
単位:百万円、%

	2016年度	2017年度	累計比(右軸)
4月	17,690	17,823	0.7
5月	14,261		
6月	23,421		
7月	34,156		
8月	24,997		
9月	37,867		
10月	36,683		
11月	24,026		
12月	23,920		
1月	29,148		
2月	27,499		
3月	45,553		



今年度4月～翌年3月までの累計を前年度同期と比較すると、0.7%増となっています。(上記折れ線グラフ)

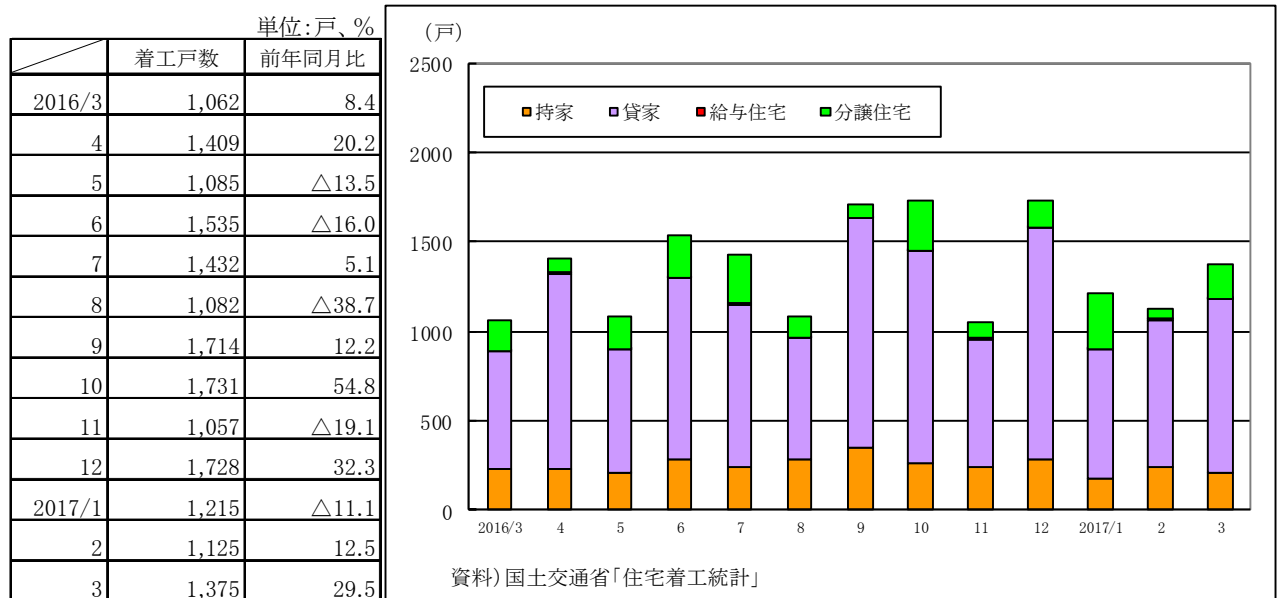
②建設資材…生コン、セメントはともに同年同月を上回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、生コンの出荷量は11.6%増と2ヵ月連続で前年同月を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より28.5%上回り、民間工事向け出荷も4.2%上回りました。セメント出荷量は6.1%増と5ヵ月連続で前年同月を上回りました。

【参考】住宅投資(3月)…着工戸数は前年同月を上回る。

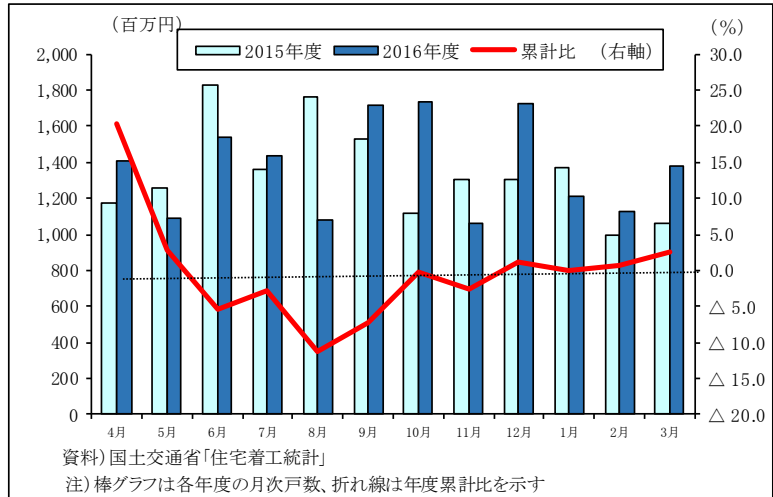


新設住宅着工戸数(3月)は、全体で前年同月比29.5%増の1,375戸と2ヵ月連続で前年同月を上回りました。利用別戸数をみると、ウエイトの高い「貸家(同47.6%増)」や「分譲住宅(同15.0%増)」前年同月を上回った一方で、「持家(同10.4%減)」や「給与住宅(同40.0%減)」は下回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）…前年度を上回る。

単位:百万円、%

	2015年度	2016年度	累計比 (右軸)
4月	1,172	1,409	20.2
5月	1,254	1,085	2.8
6月	1,828	1,535	△5.3
7月	1,362	1,432	△2.8
8月	1,764	1,082	△11.3
9月	1,527	1,714	△7.3
10月	1,118	1,731	△0.4
11月	1,306	1,057	△2.5
12月	1,306	1,728	1.1
1月	1,366	1,215	△0.1
2月	1,000	1,125	0.7
3月	1,062	1,375	2.6

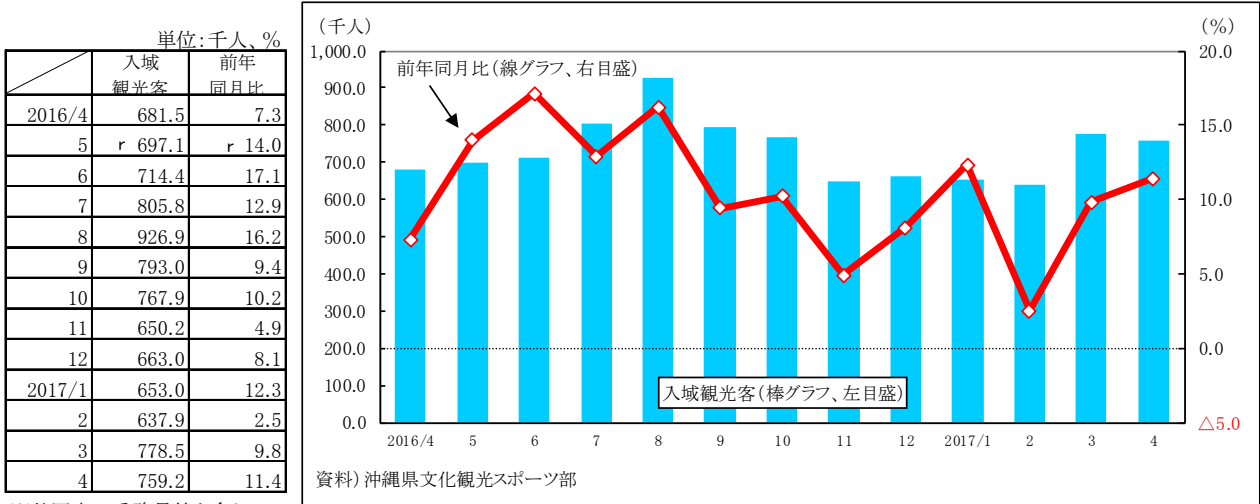


今年度4月～翌年3月までの累計を前年度と比較すると、2.6%増となっています。
(上記折れ線グラフ)



■観光関連: (良い)

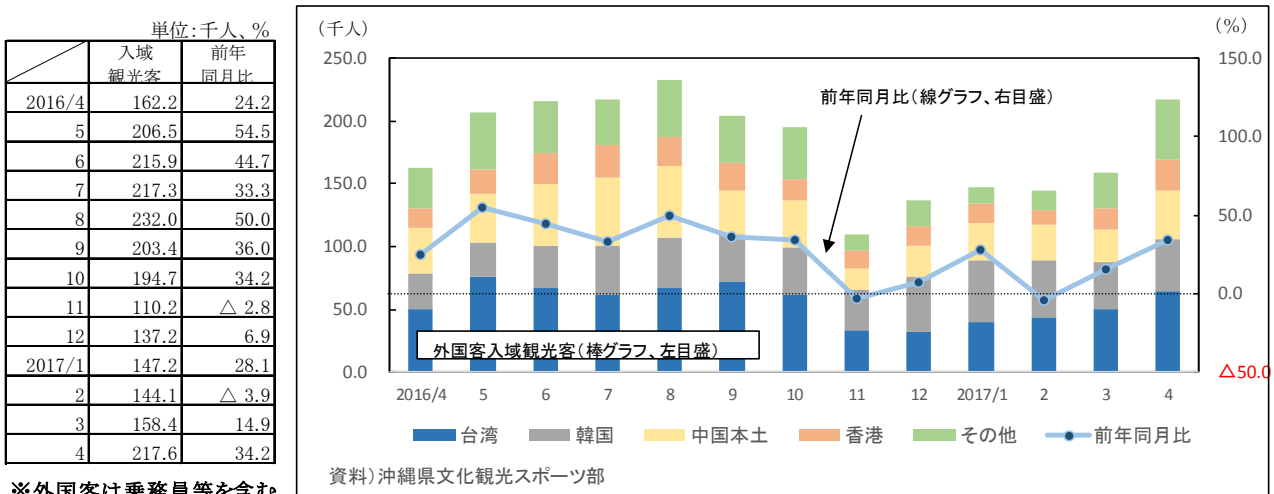
①入域観光客数(国内客・外国客の合計)…55ヵ月連続で前年同月を上回る。



※外国客は乗務員等を含む

※上記 2016 年 5 月の数値については、沖縄県よりホームページにて数値訂正の公表(2016 年 8 月 19 日付)があったことから遡って修正した。

外国客 入域観光客数…2ヵ月連続で前年同月を上回る。



※外国客は乗務員等を含む

4月の入域観光客数は、77,700人多い759,200人(前年同月比11.4%増)となり、55ヵ月連続で前年同月を上回りました(4月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同4.3%増)」は541,600人と、航空路線の拡充(増便等)により輸送実績が増加したことや、県内で大型イベントが複数開催されたことなどにより空路客が好調に推移し、13ヵ月連続で前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同34.2%増)」は、217,600人と2ヵ月連続で前年同月を上回りました。新規就航(韓国:大邱-那覇、中国:西安-那覇)を含む航空路線の拡充効果やクルーズ船の寄港回数増加等により、空路・海路ともに好調に推移したことから、前年同月を上回りました。

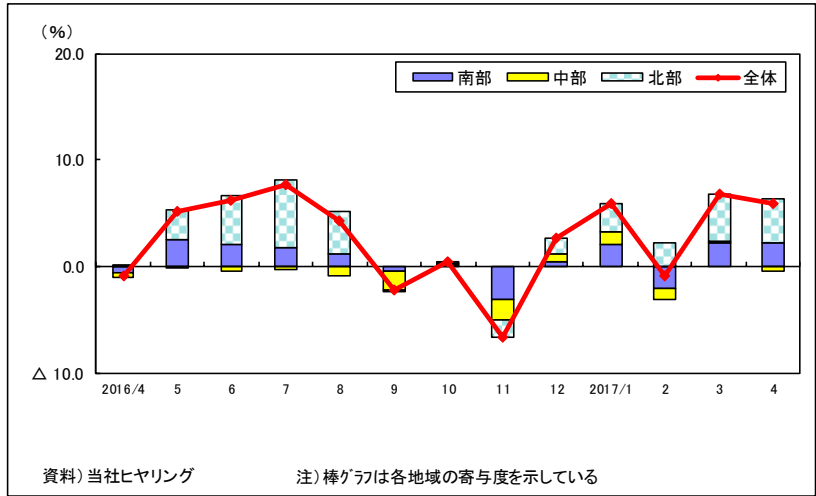
「台湾(同27.6%増)」「韓国(同50.9%増)」「中国本土(同2.7%増)」「香港(同66.7%増)」

※乗務員等を除く2017年4月実績=全体732,400人(同11.0%増)、外国客190,800人(同35.9%増)、国内客は変わらない。

②観光施設入場者数…2ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2016/4	△ 0.9	r △1.6	△ 3.0	0.3
5	5.2	6.5	△ 0.8	5.7
6	6.2	5.2	△ 3.6	9.2
7	7.7	5.1	△ 3.1	11.8
8	4.3	3.5	△ 6.9	7.3
9	△ 2.3	△ 1.3	△ 15.0	△ 0.1
10	0.4	0.3	0.9	0.4
11	△ 6.7	△ 7.4	△ 14.2	△ 3.7
12	2.7	1.1	5.0	3.5
2017/1	5.9	5.4	8.9	5.5
2	△ 0.9	△ 5.6	△ 7.6	4.3
3	6.7	r 5.6	1.6	9.0
4	5.9	5.8	△ 3.3	8.5



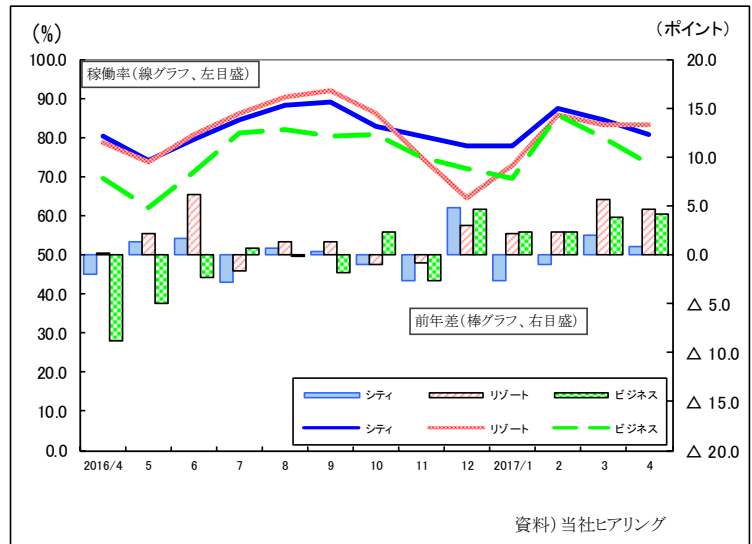
※調査対象施設数＝南部6、中部6、北部5施設
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より 5.9%増加(2ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同 5.8%増と2ヵ月連続、北部は同 8.5%増と5ヵ月連続で前年同月を上回り、中部は同 3.3%減と2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

③ホテル稼働率…シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を上回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2016/4	80.1	r 78.5	69.3	△ 2.0	r 0.1	△ 8.8
5	74.2	73.5	62.2	1.3	2.1	△ 4.9
6	79.6	80.7	71.3	1.6	6.2	△ 2.3
7	84.4	86.2	81.3	△ 2.8	△ 1.7	0.7
8	88.1	90.4	82.0	0.6	1.4	△ 0.2
9	89.2	92.1	80.4	0.3	1.4	△ 1.8
10	82.9	86.2	80.9	△ 1.0	△ 1.0	2.3
11	80.2	75.1	75.0	△ 2.7	△ 0.9	△ 2.6
12	77.6	64.4	72.0	4.8	3.0	4.6
2017/1	77.9	73.0	69.6	△ 2.6	2.1	2.3
2	87.3	85.6	85.7	△ 1.0	2.3	2.3
3	84.3	r 83.0	79.8	2.0	r 5.7	3.9
4	80.9	83.1	73.4	0.8	4.6	4.1



注) シティ9ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル

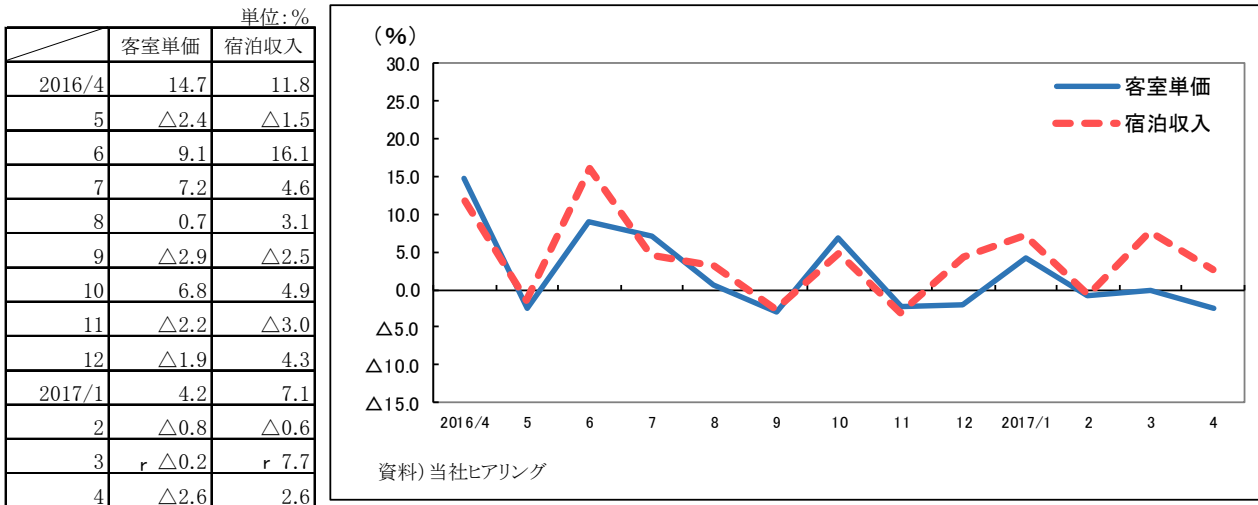
注) 2015年10月より、シティホテル対象施設数に変更(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

注) 2016年4月より、リゾートホテル対象施設数に変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが 80.9%と 0.8ポイント増加(2ヵ月連続)、リゾートホテルが 83.1%と 4.6ポイント上昇(5ヵ月連続)、ビジネスホテルが 73.4%と 4.1ポイント上昇(5ヵ月連続)しました。

④ホテル客室単価・宿泊収入…客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入は上回る。



※対象施設数:27施設(シティ9、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は27施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2015年10月より、シティホテル対象施設数が変更(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

※2016年4月より、リゾートホテル対象施設数が変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

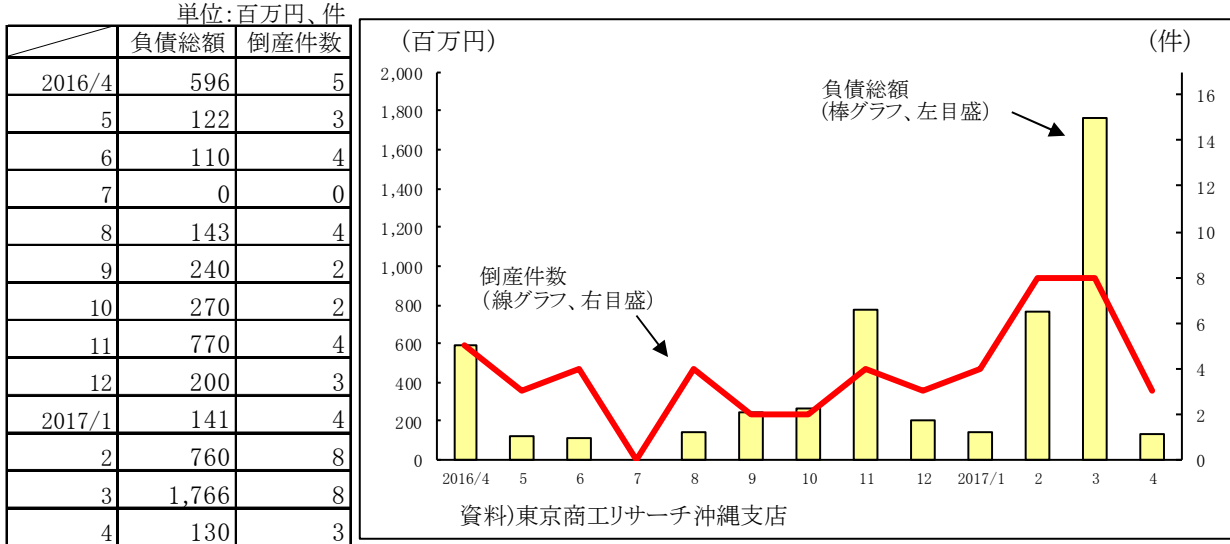
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 2.6%減と前年同月を下回りました。**宿泊収入**は同2.6%増と前年同月を上回りました。



■企業倒産: (やや良い)

企業倒産…件数、負債総額はともに前年同月を下回る。

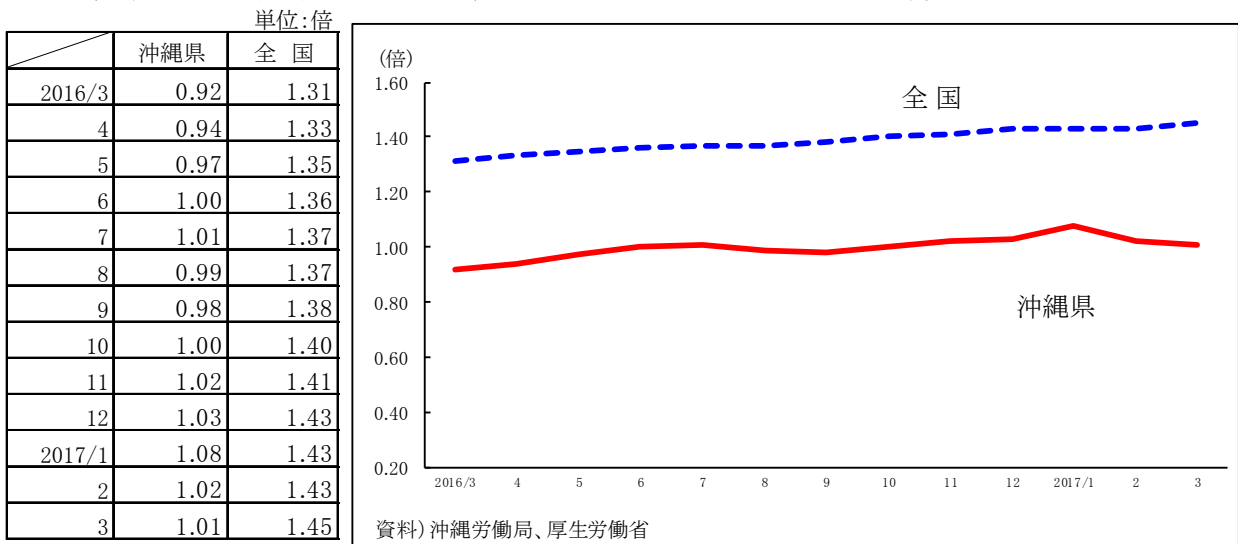


4月の**企業倒産件数**は、3件(うち大型倒産0件、大口倒産は1件)となり、前年同月より2件減少(同40.0%減)しました。**負債総額**は1億3,000万円となり、前年同月より78.2%減少しました。



【参考】雇用関連: (良い)

(参考)有効求人倍率(3月)…沖縄は前月より低下、全国は上昇。



注)季節調整済

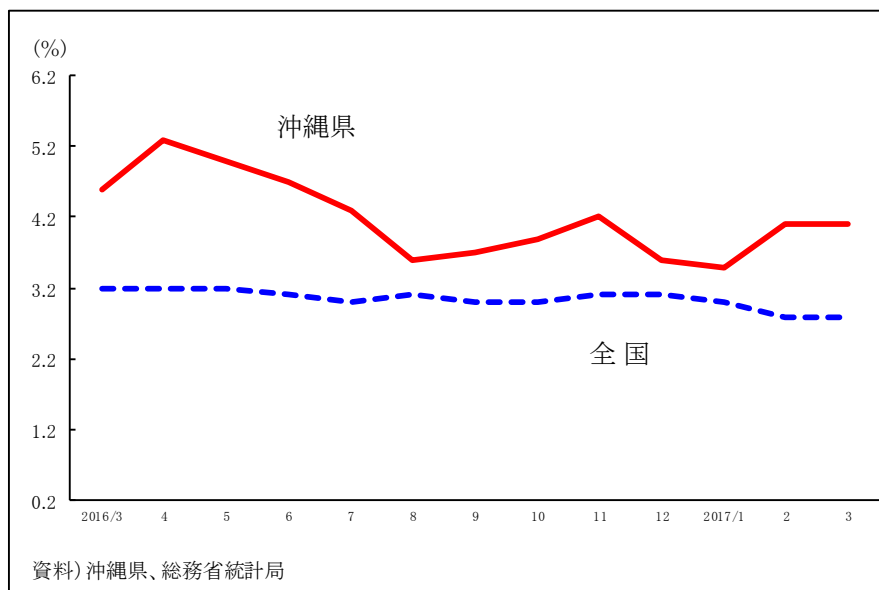
注)季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による

3月の**雇用状況**は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比1.8%減の27,185人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比1.0%減の26,906人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.01倍となり前月より0.01ポイント低下しました。

(参考) 完全失業率(3月)…沖縄、全国はともに前月と同水準。

	単位:倍	
	沖縄県	全国
2016/3	4.6	3.2
4	5.3	3.2
5	5.0	3.2
6	4.7	3.1
7	4.3	3.0
8	3.6	3.1
9	3.7	3.0
10	3.9	3.0
11	4.2	3.1
12	3.6	3.1
2017/1	3.5	3.0
2	4.1	2.8
3	4.1	2.8

注) 季節調整済



3月の完全失業率(季節調整値)は、4.1%となり前月と同水準となりました。